

新興国レポート

# インドCPIと10年国債金利の動向

CPI上昇率は今後上昇傾向となり、金利の上昇ピッチが速まる可能性も

- ▶ 2021年2月のインドのCPI（消費者物価指数）は前年同月比+5.0%と、1月の同+4.1%から上昇するも、RBI（インド準備銀行）の許容上限である6%を下回る。
- ▶ コロナワクチンの接種普及による景気回復や原油価格の高騰等を背景に、インドのCPIは今後6%を超えて高止まりする可能性もある。インド10年国債金利の上昇ピッチが速まることも想定される。

## (1) 2月インドCPIは1月水準を上回る

- インド統計局が3月12日に発表した2月のCPIは前年同月比+5.0%となりました。1月の同+4.1%から上昇しましたが、RBIが許容範囲の上限に定める6%を下回りました。CPI構成要素の約45%を占める食料品価格が個人消費の回復等で同+4.2%と、1月の同+2.7%から拡大しており、2月のCPIを押し上げたものとみられます（図表1）。

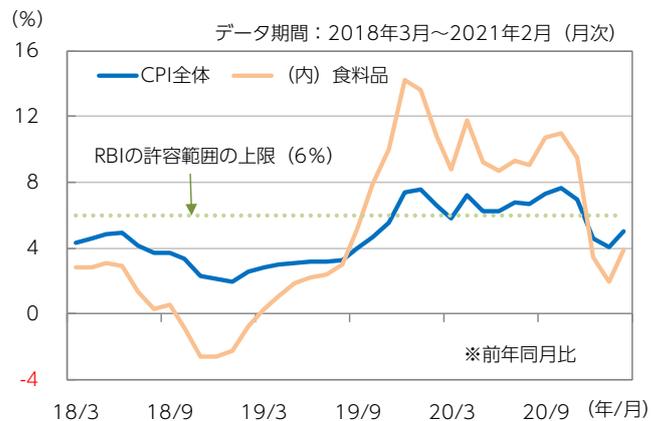
## (2) インドCPIの見通し

- 2月5日の金融政策決定会合では、都市封鎖解除による流通網の回復等を背景とした食料品価格の下落基調から、CPIも1～3月期の前年同期比+5.2%から10～12月期には同+4.3%に鈍化するとの見通しが示されています。しかし、新型コロナウイルスワクチンの接種普及で経済活動の正常化が進めば、消費需要の回復等で食料品価格が再び騰勢を強めることも想定されます。
- インドの2021年度の実質GDP（国内総生産）についてIMFは、前年度比+11.5%の成長を記録すると予想していますが（2021年1月時点見通し）、米国の1.9兆ドル規模の追加経済対策の影響等を背景に、その勢いが更に強まる可能性もあります。また、国内消費量の約8割を輸入に頼る原油の価格も高騰しています（図表2）。景気回復のスピードや原油価格の動向によっては、CPI上昇率が6%を超えることも想定されます。

## (3) インド10年国債金利の見通し

- インド10年国債金利は、経済活動の正常化による景気回復期待や米国10年国債金利の上昇等を背景に、約1年ぶりの高水準となっています（図表3）。今後、インフレ懸念が強まる場合には、RBIが金融緩和姿勢を転換するとの見方から、インド10年国債金利が上昇ペースを速めることも考えられます。

図表1：インドCPIの推移



図表2：WTI原油先物価格の推移



図表3：インドと米国の10年国債金利の推移



## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>